

## ゴムタイムス社



### モヒンドラ・グプタ全インドゴム工業会会長

全インドゴム工業会の日本訪問団が2月10日から4日間来日し、日本のゴム関係者と精力的に交流した。

今回が初来日となるモヒンドラ・グプタ会長はじめ13名の訪問団は、日本ゴム工業会、日本ゴム協会等を表敬訪問、さらに上島製作所などの日本メーカー数社を見学し、インドのゴム産業を積極的にPRした。

全インドゴム工業会の幹部ら5名が2月12日、都内でメディア向けの記者会見を開催、来日の目的などを聞いた。

#### ◆全インドゴム工業会について教えてください。

全インドゴム工業会は、ニューデリー、ムンバイ、コルカタ、チェンナイの4つの支部から構成されるタイヤ以外のゴム製品を扱う中堅企業の団体です。インドにはゴム関連企業が6000社あり、そのうちの1300社が当会の会員となる。インドのゴム産業の発展、輸出の新興、品質向上、輸入品の管理などを総合的にサポートするために、70年前に設立された。

#### ◆来日の目的は？

日本企業と技術提携をし、ジョイントベンチャーを立ち上げたい。日本ゴム工業会会員企業などとの面談を通じて、可能性を探るのが目的だ。日本ゴム工業会、日本ゴム協会、日本タイヤ協会をはじめ、明治ゴム化成、上島製作所、藤倉ゴム、三洋貿易、東ソー、三菱ゴムなどを訪問した。すぐに成果は出ないと思うが、良い印象は残せたと思う。

#### ◆インドのゴム産業について

インドゴム産業全体の売上は約1.5兆円になる。その内、輸出が25%で、国内向けは75%。当会で一番多い業種は、自動車部品、続いてコンベヤベルト、Vベルトなどのベルト、ホース。インドはこれから益々伸びて行く市場です。私たちには若い労働力があるので、日本の良い技術を導入して、一緒に良い製品を作りましょう。自由貿易協定もあるので、日本からは無税で原料や製品を輸出入できるにもメリットだ。

#### ◆インディアラバーエキスポの概要は

2017年の1月19日から21日にチェンナイで開催されるアジア最大の展示会です。出展社数はゴムの成型メーカー、材料メーカーなど500社。昨年の来場者数は2万5千人だったが、今回は約3万人の来場者を見込んでいる。日本のメーカーも、ぜひ出展してもらいたい。